

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

企画名称 (講演タイトル)	東洋大生がワークショップで学ぶ SDGs 「今知っておきたい世界のジェンダー問題と私たちの権利～SRHR（性と生殖に関する健康と権利）を知っていますか？～」
講師	講師：公益財団法人ジョイセフ 柴 千里さん
開催期間・日時	2020年12月5日(土) 11:00～13:00
会場	zoomによるオンライン開催
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものと社会問題とのつながりを知る。 ・SDGs について関心を深めるきっかけをつくる。
参加者数	21名 (内訳：学生19名、ボランティア支援室スタッフ2名)
協力	
活動内容(概要)	
<p>本ワークショップは、初めて SDGsを学ぶ学生を対象とした学びの場として、今年度4回目の開催となりました。今回は、講師として公益財団法人ジョイセフから柴千里さんにお越しいただきました。</p> <p>今回のワークショップでは「今知っておきたい世界のジェンダー問題と私たちの権利」と題し、「ジェンダー問題」の切り口から SDGs について学びました。</p> <p>講義では、途上国におけるジョイセフの活動についてお話いただくとともに、途上国の多くの女性が望まない妊娠・中絶や不衛生な環境の中での出産により、命を落としているという事実を知りました。その数は1日に約800人。驚くべき数字にショックを受けた参加者も多かったようです。また、男尊女卑の文化や人身売買の被害、性感染症などに巻き込まれる若い女の子が多くいること、その状況を打破するために現地の女の子たちに正しい知識を教えることや、自己効力感を得てもらう取組みが行われていることを知りました。</p> <p>講義後半では、日本や私たちをとりまく「性の問題」に目を向けました。日本は先進国にも関わらず、2019年の「世界男女平等ランキング」において121位(調査対象153カ国)にランクしており、ジェンダー平等の観点からは取組が遅れている現状を学びました。日本では、学校における性教育の開始年齢が各学校の自由裁量に委ねられているなど、「性」に関して積極的に語る文化が少なく、「性」にまつわる問題についても主体的に発言したり声を上げる人が多くない現状があります。性感染症や避妊の方法などについての正しい知識、自分の性別や好きになる人の性別の多様性など、私たち自身の身体や生き方そのものに密接する「性」の話を、日本においてももっと当たり前で語られる必要性を感じました。</p> <p>ジョイセフでは、自分の人生を自分で選択して生きることができるよう、ILADY. という取組を通じて、啓発活動を行っています。ワークショップの中では、参加者が自分の人生を振り返って「人生グラフ」を絵にかき、その折々でどんな困難があったか、どんな選択をしたか、どうやってそれを乗り越えたのか、などをグループでシェアしました。自分が一生付き合っていく「自分自身」という存在について、誰かの意見に流されるのではなく、自分で「選択」していくことの大切さについて気付かされる時間となりました。</p> <p>人生には様々な「選択」の場面がある中で、見えない差別や固定観念に左右されることなく、自分の意志を持つことが、社会を変えていくために私たちにできる一歩であると感じました。</p>	

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

※写真があれば数枚を添付。但し、HP や広報誌に掲載する必要があるため、被写体の了解を得るなど、掲載可能な写真を提出してください。

